

### 名前【

① 半藤一利氏は、天皇、皇后両陛下への「慰霊の旅」について、どのように考えているのでしょうか。40字内で書きましょう。


② 半藤氏は、陛下のお言葉から何が感じられてならないと言っていますか？ 2つ答えましょう。

③ 記事を読んだ感想を書きましょう。

NIEワークシート／中学生～高校生

天皇、皇后両陛下は、長いこと思いを募らせていたパラオ共和国への訪問を無事に終えた。戦後70年という節目の年でもある。戦没者の碑に深々と拝礼をされている両陛下の姿に、東京大空襲で死ぬ思いをした私などは、思わず胸を熱くしてしまう。

こんどの訪問で、特に日本から約3000名離れたペリリュー島の戦いが、あらためて新聞やテレビで報じられた。わずかな生存者のうちの1人である元兵士が語っていた「戦死した1万人の仲間がさぞかし喜んでいと思う」というしみじみとした言葉が、ある感動をもつて聞かれた。

### 大ざっぱな扱い

昭和19（1944）年9月15日の米軍上陸。「たぶん3日間、あるいはほんの2日間が終わると米軍の総司令官が豪語する4万の

## 識者の視点

大兵力を迎え撃つて、実に戦闘は11月24日まで続く。いや正確には昭和22年4月21日、残存日本兵34人が降伏するまで戦われた。

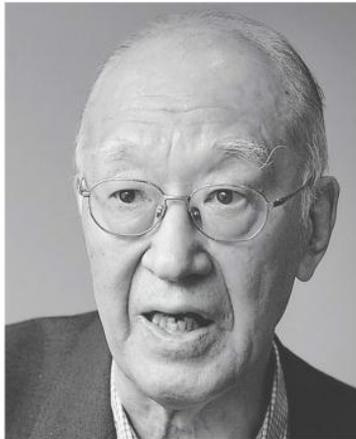
そして、この奮戦の報は昭和天皇の耳にも達した。毎朝、お文庫より表御所に出ると、天皇は侍従武官に、「ペリリュー島はどうなつたか」と聞くのを日課とした。そして10回以上も嘉賞の言葉が、ペリリュー島の中川大佐の元に送られた。

と、そんな歴史を書くことに主題があるのではなかった。太平洋戦争を調べていていつも気になることがある。この場合もそうで、

「戦死者1万」という漠然とした言い方になっている。当時、私が調べたところでは7500余名であった。兵力数や移動は軍事機密で秘せられていたから、という言葉

作家・歴史家

半藤 一利氏



はんどろ・かずとし 1930年東京生まれ。東大文学部卒業後、文芸春秋に入社。月刊文芸春秋編集長や専務取締役を経て著述に専念。「日本のいちばん長い日」など著書多数。

### 欠落埋める両陛下の旅

い訳がなされている。厚生労働省に残る「先の大戦における戦没者概数」という資料によれば、日中戦争勃発から8月15日の敗戦までの日本人犠牲者は310万人となっている。軍人・軍

属は230万人で、うち「外地」での死者が210万人、民間人は「外地」30万人に、空襲や原爆による「戦災死没者」が50万人。これが公式に発表されたのは昭和38年8月15日で、沖縄戦の犠牲者は軍人、民間人とも「外地」に組み

入れられていた。私たちがよく口にする言葉があ

# すべての犠牲者を慰霊

る。いまの繁栄があるのは尊い戦没者のおかげである、と。その犠牲者数が実はこんなに大ざっぱな扱いをされたまま、戦後も70年たつのである。その人びとの中には、国に命をささげること崇高な使命と信じて死んでいった人もあるが、そうは信じられず、運命を呪いつつ苦しんで死んでいった人もあろう。その人びとは悪鬼羅刹あるいは怨霊となり、なおさまよっているかもしれない。

陛下の心にあるのは、あに戦死者のみならず、もっと広く、深いのである。終戦の詔勅には、戦死者や公務殉職への言及に加え、民間の犠牲者を意味する非命「斃レタル者」を思うという言葉がある。両陛下には、常にこの言葉を意識し、軍人、民間人、敵味方の隔たりなく戦死を命を落とすすべての人びとの霊と、遺族を慰めるという深い思いがある。父の昭和天皇がやりきれなかった、やらなければならぬ大事なことを、自分の代に終えたい、という強い思いもあるであろう。特に、こころ、2年のお言葉からは、平和の尊さ、戦争の悲惨さを訴える強いお気持ちとともに、そのことが感じられてならない。

強いお気持ち  
さらに、陛下はパラオ政府主催晩さん会の答辞でこう言った。「日本軍は貴国民に、安全な場所への疎開を勧めるなど、貴国民の安全に配慮したと言われており